

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

山陽レミコン株式会社 呉工場
配合計画者名 角 智 成

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月11日、10月1日～12月20日 左期以外の期間については備考欄に記述。 (標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配 合 の 設 計 条 件					
呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保證する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
空気量	-				

使 用 材 料										
セメント	生産者名	日鐵高炉セメント株式会社			密度 g/cm ³	3.02	Na ₂ Oeq %			-
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq %			-
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq %			-
骨材	No.	種類	産地 又は 品名	7)別列反応性による区分 区分 試験方法	粒の大きさ の範囲	粗粒率又は 実積率	密度 g/cm ³ 絶 乾 表 乾	微粒分量の 範囲%		
	細骨材	① 砕砂	呉市広町蜘蛛取迫 (砕砂)	A 化学法	5 以下	2.85	2.57 2.61	3.5±1.5		
	② 砕砂	大分県津久見市上青江戸高 (砕砂)	A モルタルバー法		5 以下	2.85	2.61 2.65	7.0±2.0		
	③	-	-	-	-	-	-	-		
粗骨材	① 砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (2010)	A 化学法		20~10	6.97	2.64 2.66	0.5±0.5		
	② 砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (1505)	A 化学法		15~5	6.35	2.64 2.66	0.5±0.5		
	③	-	-	-	-	-	-	-		
	④	-	-	-	-	-	-	-		
混和剤①	製品名	フローリックSV10L	種類	AE減水剤 (標準形 I 種)			Na ₂ Oeq %		0.7	
混和剤②	製品名	フローリックAE-6	種類	AE剤 I 種			Na ₂ Oeq %		1.0	
混和剤③	製品名	-	種類	-			Na ₂ Oeq %		-	
細骨材の塩化物量		-		%水の種類	回収水 (上澄み水)	目標スランプ 固形分率	-		%	
回収骨材の使用法		細骨材	-	粗骨材	-	スランプ 水の使用方法	-		-	

配 合 表 kg/m ³													
セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
313	-	-	172	662	166	-	580	386	-	-	2.19	2.50	-

水セメント比 55 % 水結合材比 - % 細骨材率 46.5 %

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。 骨材混合比 (質量混合) 細骨材①:② 80.0:20.0
粗骨材①:② 60.0:40.0

混和剤使用量：夏期6月12日～9月30日：+0.1%～+0.2% 冬期12月21日～3月10日：-0.1%～-0.2%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 24	スラブ又はスラブフォーム cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
-----	----------------------	------------	--------------------------	----------------------	--------------------

指定事項 W/C ≤ 55%

(1) 変動係数(v) 当工場の実績により v = 9 %

(2) 配合強度(m)
 $\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot v}{100}} = 1.16$ $\alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot v}{100}} = 1.22$
 $m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 24 = 29.3 \text{ N/mm}^2$
 よって m = 29.3 N/mm²

(3) 水セメント比(W/C) $m = -14.0 + 25.4 \times C/W$
 $W/C = 25.4 \div (29.3 + 14.0) \times 100 = 58 \% > \text{【55\% (上限値)】}$
 $\therefore W/C = 55 \%$
 このときの推定配合強度 m = 32.2 N/mm²

(4) 単位水量(W) 当工場の実績により W = 172 kg/m³

(5) 単位セメント量(C) $C = W \div (W/C) \times 100 = 172 \div 55 \times 100 = 313 \text{ kg/m}^3$
 $C_v = C \div \text{密度} = 313 \div 3.02 = 104 \text{ l/m}^3$

(6) 空気量(A) A = 4.5 % × 1000 = 45 l/m³

(7) 細骨材率(s/a) 当工場の実績により s/a = 46.5 %

(8) 単位細骨材量(S) $S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 679 \times 46.5 \% = 316 \text{ l/m}^3$
 $S = S_v \times \text{表乾密度} = 316 \times 2.62 = 828 \text{ kg/m}^3$
 $S_1 = S \times 80.0 \% = 662 \text{ kg/m}^3$
 $S_2 = S \times 20.0 \% = 166 \text{ kg/m}^3$

(9) 単位粗骨材量(G) $G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 637 = 363 \text{ l/m}^3$
 $G = G_v \times \text{表乾密度} = 363 \times 2.66 = 966 \text{ kg/m}^3$
 $G_1 = G \times 60.0 \% = 580 \text{ kg/m}^3$
 $G_2 = G \times 40.0 \% = 386 \text{ kg/m}^3$

(10) 単位混和剤量(Ad) $Ad_1 = C \times \text{添加率} = 313 \times 0.7000 \% = 2.19 \text{ kg/m}^3$
 $Ad_2 = C \times \text{添加率} = 313 \times 0.8000 \% = 2.50 \text{ kg/m}^3$

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
313	—	—	172	662	166	—	580	386	—	—	2.19	2.50	—
水セメント比	55 %		細骨材率	46.5 %			骨材混合比 (質量混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②				80.0:20.0 60.0:40.0	

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

山陽レミコン株式会社呉工場
配合計画者名 角 智 成

工 事 名 称	
所 在 地	
納 入 予 定 時 期	
本配合の適用期間	3月11日～6月11日、10月1日～12月20日 左期以外の期間については備考欄に記述。 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び又は水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
空 気 量	-				

使 用 材 料

セメント	生産者名	日鐵高炉セメント株式会社		密度 g/cm ³	3.02	Na ₂ Oeq %	-		
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq %	-	
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ Oeq %	-	
骨材	No.	種類	産地 又は 品名	7月1日以前	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲%
				試験方法			絶 乾	表 乾	
細骨材	①	砕砂	呉市広町蜘蛛取迫 (砕砂)	A 化学法	5 以下	2.85	2.57	2.61	3.5±1.5
	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高 (砕砂)	A モルタルバー法	5 以下	2.85	2.61	2.65	7.0±2.0
	③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (2010)	A 化学法	20~10	6.97	2.64	2.66	0.5±0.5
	②	砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (1505)	A 化学法	15~5	6.35	2.64	2.66	0.5±0.5
	③	-	-	-	-	-	-	-	-
	④	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	フローリックRV10L	種類	AE減水剤 (遅延形 I 種)			Na ₂ Oeq %		0.8
混和剤②	製品名	フローリックAE-6	種類	AE剤 I 種			Na ₂ Oeq %		1.0
混和剤③	製品名	-	種類	-			Na ₂ Oeq %		-
細骨材の塩化物量		-		%水の種類	回収水 (上澄み水)	目標スラッグ 固形分率	-		
回収骨材の使用量		細 骨 材	-	粗 骨 材	-	スラッグ 水の使用方法	-		

配 合 表 kg/m³

セメント	混 和 材		水	細 骨 材			粗 骨 材				混 和 剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
313	-	-	172	662	166	-	580	386	-	-	2.50	2.50	-	
水セメント比		55 %		水結合材比			-				細骨材率			46.5 %

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合があります。骨材混合比 (質量混合) 細骨材①:② 80.0:20.0 粗骨材①:② 60.0:40.0
混和剤使用量: 夏期6月12日～9月30日: +0.1%～+0.2% 冬期12月21日～3月10日: -0.1%～-0.2%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 24	スラブ [°] 又はスラブ [°] フー cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
-----	----------------------	------------	--	----------------------	--------------------

指定事項 W/C ≤ 55%

(1) 変動係数 (v) 当工場の実績により v = 9 %

(2) 配合強度 (m)

$$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot v}{100}} = 1.16 \quad \alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot v}{100}} = 1.22$$

$$m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 24 = 29.3 \text{ N/mm}^2$$

よって m = 29.3 N/mm²

(3) 水セメント比 (W/C) $m = -14.0 + 25.4 \times C/W$
 $W/C = 25.4 \div (29.3 + 14.0) \times 100 = 58 \% > \text{【55\% (上限値)】}$

∴ W/C = 55 %

このときの推定配合強度 m = 32.2 N/mm²

(4) 単位水量 (W) 当工場の実績により W = 172 kg/m³

(5) 単位セメント量 (C) $C = W \div (W/C) \times 100 = 172 \div 55 \times 100 = 313 \text{ kg/m}^3$

$$C_v = C \div \text{密度} = 313 \div 3.02 = 104 \text{ l/m}^3$$

(6) 空気量 (A) $A = 4.5 \% \times 1000 = 45 \text{ l/m}^3$

(7) 細骨材率 (s/a) 当工場の実績により s/a = 46.5 %

(8) 単位細骨材量 (S) $S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 679 \times 46.5 \% = 316 \text{ l/m}^3$

$$S = S_v \times \text{表乾密度} = 316 \times 2.62 = 828 \text{ kg/m}^3$$

$$S_1 = S \times 80.0 \% = 662 \text{ kg/m}^3$$

$$S_2 = S \times 20.0 \% = 166 \text{ kg/m}^3$$

(9) 単位粗骨材量 (G) $G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 637 = 363 \text{ l/m}^3$

$$G = G_v \times \text{表乾密度} = 363 \times 2.66 = 966 \text{ kg/m}^3$$

$$G_1 = G \times 60.0 \% = 580 \text{ kg/m}^3$$

$$G_2 = G \times 40.0 \% = 386 \text{ kg/m}^3$$

(10) 単位混和剤量 (Ad) $Ad_1 = C \times \text{添加率} = 313 \times 0.8000 \% = 2.50 \text{ kg/m}^3$

$$Ad_2 = C \times \text{添加率} = 313 \times 0.8000 \% = 2.50 \text{ kg/m}^3$$

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤			
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③	
313	—	—	172	662	166	—	580	386	—	—	2.50	2.50	—	
水セメント比	55 %		細骨材率	46.5 %			骨材混合比 (質量混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②				80.0:20.0 60.0:40.0		

備考

レディーミクストコンクリート配合計画書

No. _____

2025年 4月 1日

山陽レミコン株式会社 呉工場
配合計画者名 角 智 成

工事名称	
所在地	
納入予定時期	
本配合の適用期間	3月11日～6月11日、10月1日～12月20日 左期以外の期間については備考欄に記述。 (修正標準配合)
コンクリートの打込み箇所	

配 合 の 設 計 条 件

呼び方	コンクリートの種類による記号	呼び強度	スランプ 又はスランプ フロー cm	粗骨材の最大寸法 mm	セメントの種類による記号
	普通	24	12	20	BB
指定事項 (必須)	セメントの種類	呼び方欄に記載		粗骨材の最大寸法	呼び方欄に記載
	骨材の種類	使用材料欄に記載		アルカリシリカ反応抑制対策の方法	BB
指定事項 (任意)	骨材のアルカリ反応性による区分	使用材料欄に記載		軽量コンクリートの単位容積質量	- kg/m ³
	舗装コンクリートの強度試験方法	曲げ強度・圧縮強度		コンクリートの温度	- °C
	水の種類	使用材料欄に記載		水セメント比及び水結合材比の目標値の上限	55 %
	混和材料の種類及び使用量	使用材料及び配合表欄に記載		単位水量の目標値の上限	- kg/m ³
	塩化物含有量	0.30 kg/m ³ 以下		単位セメント量の目標値の下限又は目標値の上限	- kg/m ³
	呼び強度を保証する材齢	- 日		流動化後のスランプ又はスランプフローの増大量	- cm
空気量	-				

使 用 材 料

セメント	生産者名	日鐵高炉セメント株式会社		密度 g/cm ³	3.02	Na ₂ O eq %	-		
混和材①	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ O eq %	-	
混和材②	製品名	-	種類	-	密度 g/cm ³	-	Na ₂ O eq %	-	
骨材	No.	種類	産地 又は 品名	アルカリ反応性による区分	粒の大きさの範囲	粗粒率又は実積率	密度 g/cm ³		微粒分量の範囲 %
				試験方法			絶乾	表乾	
細骨材	①	砕砂	呉市広町蜘蛛取迫 (砕砂)	A 化学法	5 以下	2.85	2.57	2.61	3.5 ± 1.5
骨材	②	砕砂	大分県津久見市上青江戸高 (砕砂)	A モルタルバー法	5 以下	2.85	2.61	2.65	7.0 ± 2.0
材	③	-	-	-	-	-	-	-	-
粗骨材	①	砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (2010)	A 化学法	20~10	6.97	2.64	2.66	0.5 ± 0.5
	②	砕石	呉市広町蜘蛛取迫 (1505)	A 化学法	15~5	6.35	2.64	2.66	0.5 ± 0.5
骨材	③	-	-	-	-	-	-	-	-
材	④	-	-	-	-	-	-	-	-
混和剤①	製品名	フローリックSV10L		種類	AE減水剤 (標準形 I 種)			Na ₂ O eq %	0.7
混和剤②	製品名	フローリックAE-6		種類	AE剤 I 種			Na ₂ O eq %	1.0
混和剤③	製品名	-		種類	-			Na ₂ O eq %	-
細骨材の塩化物量		-		% 水の種類	回収水 (上澄み水)	目標スラッジ 固形分率			- %
回収骨材の使用法	細骨材	-		粗骨材	-		スラッジ 水の使用法	-	

配 合 表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
313	-	-	172	662	166	-	580	386	-	-	1.88	2.50	-
水セメント比	55 %			水結合材比	-				細骨材率	46.5 %			

備考 骨材の質量配合割合、混和剤の使用量については、断りなしに変更する場合がある。
骨材混合比 (質量混合) 細骨材①:② 80.0:20.0
粗骨材①:② 60.0:40.0
混和剤使用量: 夏期6月12日～9月30日: +0.1%～+0.2% 冬期12月21日～3月10日: -0.1%～-0.2%

配合計算書

配合の設計条件

呼び方	コンクリートの種類による記号 普通	呼び強度 24	スラブ又はスラブフォーム cm 12	粗骨材の最大寸法 mm 20	セメントの種類による記号 BB
-----	----------------------	------------	--------------------------	----------------------	--------------------

指定事項 W/C ≤ 55%

(1) 変動係数(v)	当工場の実績により v = 9 %				
(2) 配合強度(m)	$\alpha_1 = \frac{0.85}{1 - \frac{3.0 \cdot V}{100}} = 1.16$ $\alpha_2 = \frac{1}{1 - \frac{2.0 \cdot V}{100}} = 1.22$ $m = \alpha_2 \times S_L = 1.22 \times 24 = 29.3 \text{ N/mm}^2$ <p style="text-align: right;">よって m = 29.3 N/mm²</p>				
(3) 水セメント比(W/C)	$m = -14.0 + 25.4 \times C/W$ $W/C = 25.4 \div (29.3 + 14.0) \times 100 = 58 \% > \text{【55\% (上限値)】}$ <p style="text-align: right;">∴ W/C = 55 % このときの推定配合強度 m = 32.2 N/mm²</p>				
(4) 単位水量(W)	当工場の実績により W = 172 kg/m ³				
(5) 単位セメント量(C)	$C = W \div (W/C) \times 100 = 172 \div 55 \times 100 = 313 \text{ kg/m}^3$ $C_v = C \div \text{密度} = 313 \div 3.02 = 104 \text{ l/m}^3$				
(6) 空気量(A)	A = 4.5 % × 1000 = 45 l/m ³				
(7) 細骨材率(s/a)	当工場の実績により s/a = 46.5 %				
(8) 単位細骨材量(S)	$S_v = (1000 - (W + C_v + A)) \times s/a = 679 \times 46.5 \% = 316 \text{ l/m}^3$ $S = S_v \times \text{表乾密度} = 316 \times 2.62 = 828 \text{ kg/m}^3$ $S_1 = S \times 80.0 \% = 662 \text{ kg/m}^3$ $S_2 = S \times 20.0 \% = 166 \text{ kg/m}^3$				
(9) 単位粗骨材量(G)	$G_v = 1000 - (W + C_v + S_v + A) = 1000 - 637 = 363 \text{ l/m}^3$ $G = G_v \times \text{表乾密度} = 363 \times 2.66 = 966 \text{ kg/m}^3$ $G_1 = G \times 60.0 \% = 580 \text{ kg/m}^3$ $G_2 = G \times 40.0 \% = 386 \text{ kg/m}^3$				
(10) 単位混和剤量(Ad)	$Ad_1 = C \times \text{添加率} = 313 \times 0.6000 \% = 1.88 \text{ kg/m}^3$ $Ad_2 = C \times \text{添加率} = 313 \times 0.8000 \% = 2.50 \text{ kg/m}^3$				

配合表 kg/m³

セメント	混和材		水	細骨材			粗骨材				混和剤		
	①	②		①	②	③	①	②	③	④	①	②	③
313	-	-	172	662	166	-	580	386	-	-	1.88	2.50	-
水セメント比	55 %		細骨材率	46.5 %			骨材混合比 (質量混合)	細骨材①:② 粗骨材①:②				80.0:20.0 60.0:40.0	

備考